

〈令和7年度 東京都立大島高等学校 定時制課程 学校経営報告〉

学校名 東京都立大島高等学校
 校長名 友常 裕

令和8年3月31日

1 取組についての報告と評価

(1) 教育活動への取組と達成状況

≪教育目標≫ 五訓に基づき、郷土を敬愛し、自己の尊厳を覚り、真理を究明し、誠実をもって事を達成し、常に健康かつ明朗で勤労を貴ぶ人材を育成する。 ○誠実 Sincerity ○敬愛 Respect ○勇気 Courage ○自尊 Self-esteem ○自主 Independence ≪教育目標を達成する活動内容≫ ○ 誠実で豊かな人間性をもつ知・徳・体の調和のとれた人間を育成する。 ○ 郷土を愛し、誇りをもってその良さを世界に発信できる人間を育成する。 ○ 勇気と行動力をもって困難に立ち向かうことのできる逞しい人間を育成する。 ○ 自己を信じ何事にも前向きに取り組むことのできる人間を育成する。 ○ 自ら考え判断し行動できる自主性と創造力をもった自立した人間を育成する。 ○ 教職員の絶え間ない研鑽と組織的・継続的な教育活動を推進する。
--

≪今年度の数値目標の達成状況≫

目 標 内 容	数 値 目 標	達 成 状 況
入学満足度	生徒肯定評価 100%、保護者 100% (6年度生徒 100%、保護者 100%)	生徒肯定評価 100%、保護者 100%
授業内容理解に対する生徒肯定率	生徒肯定評価 100% (6年度 100%)	生徒肯定評価 100%
年間遅刻 10 回以上の生徒の人数 (新規)	0 人	0 人
検定・資格・コンクール等チャレンジ割合	90%以上 (6年度 86%)	71%、高卒認定試験受験 2 名、定通東京都美術展出品 7 名 (絵画、写真部門)
読書率	100% (6年度 100%)	100%
入学相談会・説明会等での個別相談	10 組 (6年度 5 組)	5 組
学力の基礎が身につけていると実感する生徒の割合	100% (6年度 100%)	100%
子どもが進路について考えていると実感する保護者の割合	100% (6年度 100%)	60%
延べ遅刻生徒数 (新規)	35 人	19 人
進路決定率	100% (6年度 100%)	67% ※4 年生 1 人未定
教員の相互の授業見学の年間 2 回以上の割合	100% (令和 6 年度実績 85%)	100%
学校ホームページの更新	更新 200 回目目標 (6年度 185 回)	給食、学校行事、その他で 175 回
特別支援教育・教育相談に関する委員会の開催回数	6 回 (6年度 3 回)	3 回
勤務時間外の在校時間が月 45 時間超 (延べ人数)	0 人 (6年度 0 人)	0 人
教職員の年次休暇 15 日以上取得率	100% (6年度 100%)	100%
学校評価アンケート地域住民回収率	85% (6年度 73%)	66%

(2) 取組状況と自己評価 (4段階 高4～低1)

ア 学習指導：基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る

【 3 】

① 45 分間の授業を大切に、チャイムと同時に授業が展開できる態勢を維持した。

② 年間授業計画に達成目標、評価基準を明確に示し、定期考査等の結果を踏まえて授業に取り組んだ。

教員相互の授業見学、他校、指導教諭の模範授業等の参加については 8 人中 8 名であった。引き続き全

員が実施できるように努める。

- ③ すべての教員が主体的・対話的学びの実現を目指し、積極的に授業に取り入れ人間関係重視の授業の実践を積みあげた。個に応じた指導も取り入れ授業改善に取り組んだ。
- ④ 6、9、1月に読書週間を設け、読書活動の推進を図った。今年度も読書率100%を達成できた。
- ⑤ 生徒の一人一台端末を使って行う授業はまだ弱い、もっと使用回数を増やし効率的に授業で使用するよう努める。一方 Teams の活用、「都立学校版コンディションレポート」は良く取り扱っており、生徒の出席、体調確認に役立っている。

イ 進路指導：生徒の自己理解を進め希望する進路実現を支援する 【 4 】

- ① 進路講演会、キャリアセミナーをハローワーク等の協力をいただき実施、キャリア教育の充実を図った。
- ② 自らが希望する企業の情報資料の提供、生徒個々の実態に応じた個別指導を重ね、希望の進路に合わせた対応の成果がみられた。低学年に進路の手引きを渡すなど進路情報提供を強化する必要がある。
- ③ 進路状況については在籍の3年生1名が就職内定し、4年生1名が職業訓練校に合格した。
- ④ グループエンカウンターを全学年、教員も加わり、年間3回実施した。自己理解や他者理解を図り、居場所作りと一人ひとりの自己肯定感を向上させた。教員との距離を縮めることにも役に立った。

ウ 生活指導：社会性を培い、自主性を尊重し、自律の態度を養い、規律ある生活習慣の育成する 【 3 】

- ① 年間を通して健康確認、時間厳守、あいさつ、遅刻指導、帰宅時の見送りを組織的に実施した。遅刻、長期欠席者について課題が残った。次年度に改善に向けて指導を行う。
- ② 12月には例年恒例の元町地区夜間パトロールを2日間実施した。大島警察署、防犯協会、地域母の会と連携し、社会貢献並びに地域参画を促す一助となった。大島町の空き家が増えていること、乾燥により火災発生のおそれがあることを踏まえ今後も継続していく。なお、関係の団体の大人と生徒が良い関係が築けている。
- ③ 交通安全教室、セーフティ教室（生活安全、薬物乱用防止）を実施、生命尊重の精神を育んだ。

エ 健康・安全：教育相談体制の整備と、安全の確保・事故防止を徹底する 【 3 】

- ① スクールカウンセラーとの全員面接について、今年度は新しいスクールカウンセラーが着任したことから相談することへのハードルを下げるため必要であった。安心して相談できる環境づくりを行い、事後のフィードバックを教員に行うことで生徒理解につなげた。
- ② 防災教育の推進と学校危機管理計画に基づく危機管理体制づくりを進めた。火災、地震、津波、噴火に合わせた4回（6、9、11、1月）設定した避難訓練を計画的に実施。「自助・共助・公助の連携による防災力の向上」並びに命の大切さを学習させた。

オ 広報活動・募集活動：保護者や地域に積極的に教育活動を公開する 【 3 】

- ① ホームページを利用し、本校定時制の良さを PR するため学校生活や行事を中心とした更新を行った。更新回数は目標値より低いが広報活動には充分繋がった。
- ② 昨年度に引き続き学校 PR 用のポスター町内の施設・商店に掲示し、昨年同様島民の誰でも目に触れるものとした。加えて、定時制のクリアファイルを作成して島内の中学生に配布することで定時制の PR を行った。
- ③ 昨年度に引き続き学校公開に力を入れ、大島町のセーフティネットであることを伝えるために町内関係施設、中学校教員を招待し、授業見学と本校の特徴を伝えた。加えて給食の試食を行い、夜間定時制課程に通う高校生を支える大切な役割を果たしていることをアピールした。
結果、次年度新1年生の入学も決まり PR の効果は一定程度あったと思える。

2 次年度学校経営への評価の観点と改善策

(1) 学力・授業力向上

【評価】 主体的・対話的な学びの積極的な導入、安心安全な実験実習の実施、人間関係重視の授業の実践。

【改善策】 各教科で1～2人の少人数での学びをより一層工夫する。相互授業見学、他校、指導教諭の模範授

業等(web 含)の参加による情報交換と授業改善を引き続き推進する。一人一台端末の積極的な使用、予備実験の実施、実験の器具の点検による安心安全な実験を実施する。

(2) 進路指導・キャリア教育の充実と生徒の進路実現

【評 価】常に進路希望 100%達成を目指す土台作りとしてのキャリア教育の実現、生徒向けの進路意識啓発事業の充実。生徒のニーズに合った進路指導並びに提携学生寮の選択。

【改善策】低学年時より進路の情報提供を行い、ハローワークや都立職業能力開発センターを始めとした関係機関との連携。就職者、進学者分け隔てなく対応する学習を推進する。進路希望情報の共有、二者・三者面談に基づく計画的な指導を継続。生徒の第一希望進路を実現する進路研修と生徒指導を継続し、実現する。

(3) 生徒個々の能力や特性に応じた個別的・計画的な指導の充実

【評 価】多様な生徒の学力・その他の能力・特性に応じた個別指導、教員同士の情報交換等の充実、多方面に渡る成長を多角的に評価。

【改善策】令和の日本型学校教育の構築を目指して、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現するため生徒の実態に合った教材開発と授業を行う。校内研修や大島町立学校との連携・東京都の教科主任会へ参加や実践事例などを校内で伝達することで、授業力の向上を目指す。

(4) 生活指導・健全育成

【評 価】避難訓練・講話による防災意識の向上と自助・共助の力を身に付ける指導の実施。

【改善策】学校危機管理計画に基づく危機管理意識の徹底と安心・安全な学校づくりの継続。今年度実施できなかった全定合同での防災推進委員会を開催し、大島町、並びに関係省庁との連携を密にするとともに、大島高校の教職員の防災体制を一元化する。被災のあった町であることを風化させない防災教育を行う。

(5) 広報・募集活動の取組

【評 価】学校ホームページ更新回数、学校便りの発行(年間3回)、授業公開、学校説明会の開催

【改善策】従前の広報活動に捉われるのではなく、本校の良さを伝える内容を精選し、写真と解説を中学生に訴求する HP 作りやアイデアを組織的に検討する。不登校や様々な事情を抱えた生徒を常に温かく迎えることができる学校であることを伝える募集活動をあらゆる形で実現する。町の教育委員会、関係団体や自立支援団体パレット、ロケットとも連携を強化する。